

せぼね

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5

声を束ねて～福島に思いをこめて～



写真左上：「ふくしまっ子リフレッシュin 世田谷」での講演の様子
写真左下：※今も地域のほとんどが帰還困難地域の津島地区で
帰還した人々が自主的に行っているイルミネーション

写真右上：※浪江駅前で始まった工事
写真右下：※浪江町から見た福島原発
※写真提供：大根健一

まちの市民力

P.6

～身近な自然科学を知ると毎日が面白い～

NPO 法人 Science and Art



せたがやキラリ人

P.7

～浪江の写真を撮り続ける～

大根 健一さん



おたがいさまビュー

P.8-P.11

ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ

声を束ねて、福島に思いをこめて

文責／星野弥生（セボネ編集委員）



「ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷」で講演する三原さん

下北沢でお連れ合いと一緒に、小さな詩歌・文芸出版社を営んでいる歌人の三原由起子さんは、福島県浪江町で生まれ育ち、中学時代の恩師に勧められて高校一年から短歌を作り始めました。曾祖父の時代から家業はおもちゃ店と自転車店。2011年3月11日に大地震・原発事故が起こった時、三原さんは東京に住んでいましたが、10キロ圏内の実家には避難指示が出ます。3・11以降、故郷への想いを詠み続ける三原さんの短歌を通じて、14年経った「福島の今」を知って感じ、「わすれずにいたいと思うのです」。

「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」が2012年から区内で行ってきた「ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷」の第26回目、2024年冬の4泊5日の期間中、福島からの家族と世田谷の区民が共に集い、三原さんのお話に耳を傾ける会が開催されました。三原さんは自作の短歌にこめ

られた福島の今への思いをこんなふうに語ります。

* * *

この先のふたりの未来を告げにゆくわれらを乗せてスーパーひたち

3・11以前に作った短歌も少し紹介します。2004年25歳の時に結婚をしたのですが、その1年半前くらいに特急スーパーひたちに乗って、実家に結婚の挨拶をしに行った時に作りました。この歌を詠んだときにはふるさとの未来が大きく変わってしまうなんて思いもしませんでした。

（ゆきちゃんが彼氏を連れてくるらしい）若葉がざわめく新町通り

私は浪江町のメインストリートと呼ばれていた新町通り商店街で生まれ育ちましたが、彼氏を連れてくるという噂は瞬く間に広まっていたようで、なんだかくすぐったい気持ちになりました。それだ

け商店街に育てられていたんだということも実感しました。

pep片手に震度を探る人の肩越しに見るふるさととは 赤

2011年3月11日、私は原宿で働いていました。ビル6階にいて、階段で外に避難しました。そのときpepを持っていた友人の肩越しに画面をのぞいてみると、福島県の浜通り、浪江町のあたりが震度6強を表す、真っ赤な色に染まっていました。その赤色は今でも忘れられません。その瞬間、原発が危ないと思いました。すぐに実家に連絡を取りましたが、実家は地震の被害でお店の商品が散乱しているのを片付けることで頭がいっぱいで、原発のことまでは考えられない状態でした。翌朝、10キロ圏内の実家にも避難指示が出ました。

脱原発デモに行ったら「ミクシィ」に書けば誰かを傷つけたようだ

原発事故の後、当たり前のように脱原発デモに参加するようにな

りました。ふるさとの日常を奪われた私たちが声を上げなければ誰が声をあげるのか、と思っただけです。そのことをミクシィというSNSに書いたところ、友人から「原発で働いていた父を否定されたようで悲しい」というメッセージが届きました。その時、個人の問題にすり替えて、黙らせようとしているようで、息苦しさで憤りを覚えました。その一方で、自分が発する言葉が誰かを傷つけているのではないか、という感情も生まれましたが、それを恐れて沈黙をする方が大きな権力に利用されてしまうのではないかと考えました。

「元氣だよ、被曝してるけどね」って笑顔の絵文字の返信メール

今でも福島第一原発の作業員として働いている幼なじみに、メールを送った時の返信メールを歌に残しました。同じ町で生まれ育った者同士が原発事故により、このようなやりとりをしなくてはならないことはとても

悲しいことです。原発事故を巡って、さまざまな立場や考えの違いから起きてしまう「分断」にも心が苦しくなります。

「仕方ない」という口癖が日常になり日常をなくしてしまった

小さい頃から、「浪江町には原発がないからお金がないのは仕方ない、原発に頼らないと地域は成り立たないから仕方ない」など、数々の「仕方ない」に洗脳されてきました。原発マネーは人々を思考停止にしてしまっています。その土地の自然の恵みや歴史、人とのつながりなど、失うものがあまりにも大きい原発事故なのに、最近の日本では再稼働だけでなく、老朽化した原発の運転延長を認めるなど、今もなお原発に依存する人たちがいて、その心が恐ろしいです。原発は日本の、世界の一人ひとりの問題です。もう「仕方ない」とは言いたくありません。

放射性廃棄物として詰められる三月十一日前のふるさと

ふるさととは小分けにされて真っ黒な袋の中で燃やされるのを待つ

膨大なフレコンバッグの山は単なるごみの山に見えるかもしれないが、その袋の一つ一つには私たちのふるさとが詰まっています。豊かな自然や生活そのものが原発事故により、放射性廃棄物となって、袋に詰められているのです。原発がなければと、悔やむことばかりです。これ以上、同じ思いをする人が増えないように伝えていくしかありません。私たちが伝えることをやめてしまったら「なかったこと」にされてしまうでしょう。

曾祖母祖母父母の守り来し店「解体中」の幟はためく

コロナ禍の2021年1月17日、私の実家のお店の解体作業が始まりました。

わが店に売られしおもちゃのショベルカー大きくなりてわが店壊す

小さい頃からの思い出がたくさ

ん詰まっているお店が取り壊しになった時、父や知人から送られてきた写真を見てこの短歌を作りました。まるでうちのお店で売られていたおもちゃのショベルカーが大きくなって、お店を壊しているような、なんとも言えない複雑な気持ちになりました。通っていた浪江小学校も浪江中学校も解体されてしまいました。もう慣れ親しんだ景色はそこになく、原発事故は私たちのアイデンティティすらも奪っていきます。

帰る人、帰らない人、帰れない人を抱きてわが浪江町（まち）はある

歌集の中では「まち」とルビを振っています。浪江町は帰る人、帰らない人、帰れない人の他に最近では移住者も含まれ、さまざまな立場の人たちが現在の浪江町を形成しています。亡くなられた元浪江町長の馬場有さんが遺された「どこに住んでいても浪江町民」という言葉は浪江町の復興計画の理念にもなっていました。その言葉が避難している町民や出身者の心の支えでした。しかしその言葉

が薄れてきてしまっているように感じています。浪江町に住んでいる人からは「住んでいないのに文句を言うな」とか「住んでいる人に向き合って」「みんな前を向いてがんばっている」と言われることもあります。言われるとつい沈黙してしまいたいようになりますが、住む場所や立場が違ってても、ふるさと浪江町を愛する気持ちを大切にしていきたいと思っています。

最近、浪江町が「住みたい田舎ランキング」の「人口5千人未満のまち」で一位を獲得したというニュースがあります。手厚い移住の支援の結果、移住率の数字を「住みたい田舎」という言葉に置き換えているのではないのでしょうか。

商店街の更地を指して復興という人われの心を知らず

被災地ツアーで浪江町を訪れた知り合いから「きれいになってよかったわね」と、言われました。悪気はなかったと思いますが、無性に腹が立ちました。

復興と言われてしまえば本当の心を言葉にできない空気

「復興」と言えば何でもアリの風潮に、本当の心を言葉にできない空気があります。私は一時はふるさとから目を背け、心が離れていきそうになったこともありました。「復興」という言葉が免罪符のように使われます。「復興」の名のもとに、原発事故がなかったことにされて、美化されていく空気感を打ち破りたい気持ちがあふつとわいてきました。

復讐と同じくらいに復興という語おそろし人が恐ろし

浪江町の小中学校の解体を、中止ではなく延期してほしいという要望すら、町議会に否決されてしまったことがあります。私は浪江町の歴史を残す活動をしたいと思っていますが、「歴史よりも開発が大切だ」と言い切る人もいます。人の生き方までも変えてしまう、「復興」という言葉の意味を常に考えます。

復興は「なかったこと」の連続で抛り所なきふるさとになる

1月から浪江町駅前開発の工事が本格的に始まります。総事業は250億円で、建築家の隈研吾氏が手がけますが、住民説明会で「なみえまち」を「なみえちよ」と呼び間違えるくらいの意識で、町への愛情がないままに復興に携わっていくのを黙ってみていられませんか。また、「福島イノベーションコースト構想」や「福島国際研究教育機構（エフレイ）」は、国が推進する創造的復興の象徴となります。「復興」を声高に叫ぶことにより、原発事故の本質から目を背けさせるやり方に、違和感を持ち続けています。未来を描くことも大切ですが、被災者を置き去りにして「なかったこと」にする復興のあり方は、先祖代々受け継いできたふるさととの土地や歴史をないがしろにされているようです。私たちのふるさとはどこにあるのでしょうか

沈黙は口（こと）に解（ほど）けていくように一人ひとりと声を束ねて

東京電力福島第一原発事故直後、当たり前に脱原発が進むのだと思っていました。しかし、原発事故がなかったことのように再稼働が始まっています。同じ東北で苦しみを味わったはずの東北電力の女川原発ですら、先日再稼働をしてしまいました。「沈黙は賛成していることと同じ」という言葉をよく聞きます。この13年の間は沈黙との闘いだったようにも思います。周りの人だけでなく、自分自身との闘い、心の疲弊との闘いです。だからこそ今日のような会が私にとって大きな励みになります。日々原発事故と向き合っている方々と出会うことが心の支えになっています。原発事故を風化、美化させず、一人ひとりがこれからも一緒に声を束ねていきましょう。

<プロフィール>

三原由起子：1979年福島県双葉郡浪江町に生まれる。高校時代の1995年より作歌をはじめ。同年、第48回福島県文学賞短歌部門青少年奨励賞受賞。1997年第1回全国高校詩歌コンクール短歌部門優秀賞受賞。2002年共立女子大学国際文化学部卒業。2013年第24回歌壇賞候補。2013年第一歌集「ふるさとと赤」（本阿弥書店）、2021年新装版歌集「ふるさとと赤」（本阿弥書店）を出版。2022年第二歌集「土地に呼ばれる」（本阿弥書店）を上梓。現在、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与。2011年より、夫の玉城入野と下北沢で詩歌文芸出版社いりの舎を営んでいる。



三原由起子さん歌集
「新装版 ふるさとと赤」(画像右)
「土地に呼ばれる」(画像左)

～身近な自然科学を知ると毎日が面白い～

NPO 法人 Science and Art



「小さな博物館」(ちいはいく)。事務所の中で化石・骨格などの標本を展示していて、文字通り小さな博物館です。ここを運営しているのはNPO 法人 Science and Art。設立は2016年、東京都市大学の学生と先生とで一緒に設立した団体です。今回は理事の森田さんと伊野さんにお話を伺いました。

NPO には珍しい自然科学分野の団体ですが、設立した理由について、森田さん伊野さんともに自然科学の面白さを都市部の子どものために伝えたいと言います。子どもたちに、映像などではなく、現物を見たり触ったりした体験が、

将来、大人になったときに自然科学に興味を持つことにつながると考えているそうです。

現在は都内の保育施設で実施している子ども向け科学教室のほか、商業施設でのイベントへの出張教室などを行っています。ここ最近では、区立教育総合センターでのワークショップやSTEAM教育講座※、小中学校への出前講座や移動博物館など、世田谷区内でも活動が広がっています。教室のテーマとして、化学実験や野外での調査などのほか、生物・化石・図鑑などを活用しての、実際に触ったり見たりする内容を重視しているそうです。

「ちいはいく」は最近始めた活動の一つ。教育活動で使用しているさまざまな標本を持ち寄って展示をしています(各地で使われなくなった展示物を引き取ることもしているとか)。特徴としては、基本的に展示物はすべて手で触つてよく、重さや触感がわかるのは新鮮。また、理事のみなさんが個々の展示物にまつわるエピソードを話してくれるのも魅力です。現在

は、数ヶ月ごとに展示内容を変えながら、月3日ほどの開館を予定しているそうです。

森田さんは、これらの活動をきっかけに自然科学を勉強したい、学びたいという人が増えたらいい。教えるという感じではなく面白いと自ら気づきがあることが大切と言います。「ちいはいく」には、近所に住む方々や家族連れ、専門性を持った学生、教育関係者などさまざまな方が来館され、自分の興味やペースで観察したり、時には意見交換も始まります。そういった交流も含めて楽しんでもらいたいそうです。



区立小学校で実施した移動博物館の様子

2011年3月11日の原発事故により、自由に外遊びが出来なくなった福島の子どもたちに世田谷で思いっきり遊んでもらおうという「ふくしまっ子リフレッシュ」世田谷」の第26回目が行われていた昨年12月。子どもたちが大好きな羽根木プレーパークで一日プログラムに大根さんは現れました。聞けば、福島浪江町で写真撮っている。ちょうど浪江からの家族の参加もあり、宿舎での「福島の今を知る学習会」では、浪江出身の歌人の三原由起子さんが話してくださるなど、「浪江が」一気に近づいてきました。

もともとの仕事は、フリーのメディアカル・ライター。医療現場や医療関連シンポジウムなどの取材



浪江の写真を撮り続ける

大根 健一さん
おね けんいち

や執筆をしてきましたが、3・11をきっかけに浪江、双葉、南相馬などの病院での実態を取材。「あの日に起こったこと」大地震・原発禍にさらされた医療者たちの記録」を著しました。

震災の二年後に初めて、まだ全町避難指示中の浪江町に入った大根さん、「全く音がない世界だったんですね、人が2年いなくなる」と町はこうなってしまうのかと衝撃でした。原発の恩恵を最も受けていた東京の人たちにその実態を知ってもらいたいと浪江の写真撮って、世田谷で展示をしようと考えました。「飲むのも大好き」な大根さん、馴染みの3か所の飲み屋に趣旨を説明、展示にこぎつきました。今も年に一度は浪江に足を運んで写真を撮り、展示も続けています。

「14年が経ち、被災地の実態は少しずつ見えにくくなっているように感じています。帰還したのはお年寄りばかりなのに、介護資源が整備されていません。増え続ける若い移住者は、町の未来にとっ

ては嬉しいことですが、町の姿はすっかり変わってしまいました」。隈研吾氏が手がける駅前開発プロジェクトは違和感があります。が、「復興が進んでいないといっても被災地のメリットにはならないと、複雑な思いがあり、伝え方の難しさを感じています。十数年分撮りためた写真を写真集にすることを考えています」。写真は松陰神社前の「ピカピカ」でいつでも見られます。運が良ければ、浪江のお酒も。「やっぱり福島のこととは忘れないで欲しい！」

大根さんには実はもう一つの顔があります。tago、ONMというユニットで芝居の、作・演出・出演を手掛けているのです。4月4日から6日まで、成城学園前の小さな小屋で5回の公演を行います。タイトルは「ブカブカく分不相応な豊かさに気づくまでの46億年か46年、あるいは約60分」。なんだか謎めいています。浪江の写真撮る大根さんの思い、意志にきつと通じるものがあるのだから、と楽しみです。

視覚障害のある方の散歩同行ボランティア

視覚障害のある70代の女性が散歩をする時に同行していただけるボランティアを探しています（途中、喫茶店や食堂に寄る場合があります）。女性は多くのボランティアの方と接している方ですので、ボランティアが初めてといった方も安心してご参加いただけます。お問い合わせお待ちしております。

*メールでの申込み・問い合わせの際は、件名に「視覚障害者の散歩同行ボランティアの件」とし、名前・住所・電話番号をご記入ください。

- 日時／月・木・土・日曜のいずれか11時から15時頃
- 場所／千歳船橋駅周辺 ●交通／小田急線千歳船橋駅
- 条件／休憩でお茶を飲んだり昼食時の費用の一部支給あり
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 池田 TEL：03-6411-4007
メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

車いす使用の男性の生活と仕事のサポート募集

重度障害者で電動車いすを使用の60代男性が、ご家族が不在の時間、自宅で身の回りの家事と仕事のサポートをしてくれる方を求めています。掃除、布団干し、資料・文献の整理などをお願いしたいです。「障害学」をはじめ、社会福祉分野の研究をおこない、大学などで講師をしている、明るく楽しい方です。年齢・性別不問。資格不要。日時は応相談。詳細はお問い合わせください。

- 日時／応相談 ●場所／千歳台3丁目
- 交通／小田急線千歳船橋駅または京王線千歳烏山駅
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 久我 TEL：03-6411-4007
メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

車いす利用者の付き添いにご協力いただける方募集

世田谷2丁目にお住いの70代男性が出かける際に車いすを押してくださる方を探しています。男性は読書や音楽鑑賞、人と会話することが好きな方です。男性とお話を楽しみながらお出掛けに付き添っていただける方、お待ちしております（男女不問）。①または②の活動をお願いします。

- ①自宅からスーパーでの買い物や図書館経由で帰宅
水曜か金曜14時～16時（2週間に1回）
- ②病院からスーパーでの買い物経由で帰宅
火曜14時30分～16時30分（月1～2回程度）
- 日時／上記参照 ●場所／世田谷・上町近辺
- 交通／東急世田谷線上町駅徒歩7分程度（ご自宅まで）
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー 担当 小島 TEL：03-3420-2520
メール：kitabara@otagaisama.or.jp

小学校3年生といっしょに勉強をしてくれる女性募集中

駒沢公園近くにお住まいの小学校3年生の女の子が特に漢字で苦戦しています。明るい女の子です。宿題などに楽しく取り組めるよう、女の子のペースに合わせて一緒に勉強をしてくれる方、ご連絡お待ちしています。詳細はお問い合わせください。

- 日時／月・火・木・金の16時～17時（月2～4回 1回1時間）
- 場所／自宅（駒沢公園近く） ●交通／東急田園都市線駒沢大学駅
- 条件／女性（数名募集）、交通費応相談
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー 担当：市古 TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

「ふれあいフードドライブなかもち」仲間を募集中

今年9年目のふれあいカフェなかもちと同時開催の街の支え合い活動として、コロナ禍に社会福祉協議会との共催、日本赤十字社と地元町会のご協力により、5年前に活動を始めました。これまで、上野毛地区内の掲示板で広報し、食材や消耗品のご寄付を受け付けると共に、カフェでお出しする手作りお菓子や、クラフト品のお買い上げ、現金でのご寄付をお預かりし、食材に替えて、社協のネットワークで、ご入用の方やこども食堂へ提供してきました。

今回、ボランティアとして活動を支えていたメンバー1名が家庭の事情で継続困難となってしまう、新たにボランティアとして活躍いただける方を探しています。フードドライブ活動に興味のある方の連絡をお待ちしております。

- 日時／毎月第3土曜15時00分～16時30分（8月はお休みです）
- 交通／東急大井町線上野毛駅下車約12分、または東急田園都市線用賀駅下車約18分
- 問合せ／ふれあいフードドライブなかもち 担当 芳賀 TEL：090-3209-2527
メール：noriko.k.haga@gmail.com

車いす利用高齢者の散歩同行と発語練習の手伝い求む

脳梗塞の後遺症で右半身麻痺と失語症のある80代の男性が、「①車いすを押して一緒に散歩をしてくれる方」と、「②発語の練習のために一緒に歌を歌ってくれる方」を求めています。ご本人は週の大半は高齢者施設で生活していますが、週末は野沢の自宅で奥様と過ごしています。これまで散歩は奥様が付き添っていましたが、奥様も腰を痛めてしまったので、代わりに日曜日に1時間ほど散歩に同行してくれる方を探しています。なお、自宅の玄関が2階なので、外出時は階段昇降機を使用します。車いすから昇降機への移乗時にも手を貸してほしいので、男性にお願いしたいです。

発語練習は、弦巻にある高齢者施設内でお願いします。ご本人は、好きな唱歌や童謡を歌うと言葉が出やすくなるので、上手に歌うのではなく、「言葉が出るように」「ゆっくりと」一緒に歌を楽しんでくださる方にお願いしたいです。詳細はお問い合わせください。

- 日時／①散歩：毎週日曜 時間応相談 1時間程度
②発語練習：火曜～金曜（火曜のみ午後） 時間応相談 1時間程度
- 場所&交通／①散歩：野沢1丁目の自宅周辺（「野沢銀座」バス停徒歩5分）
②発語練習：弦巻5丁目の高齢者施設（「農大前」バス停徒歩6分）
- 条件／①②共通 謝礼1回1000円（交通費込）、①散歩：男性、②発語練習：性別不問
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 原口 TEL：03-5712-5101
メール：haraguchi@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は3月16日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

路上演劇祭 JAPAN2025

メキシコの路上演劇祭に出会い、2001年に始まった路上演劇祭 JAPAN 演劇、ダンス、音楽、絵画展、写真展、シンポジウム、ワークショップ、バザー……「路上で何かやってみよう！」「伝えたいことがある！」そんな気持ちを持った、いろいろな人が広場にあつまってきた。「なんでも歓迎！誰でもようこそ！みんなでつくろうよ！」のお祭りです。入場無料・出入り自由です。プログラムや当日が荒天になった場合の開催の有無など、詳細は SNS でご確認ください。

Facebook : <https://www.facebook.com/rojoengekisai>

Instagram : <https://www.instagram.com/rojoengekisai/>

X : <https://x.com/rojoengekisai>

●日時／4月12日（土）11時～19時、4月13日（日）11時～17時

●場所／烏山区民センター前広場（世田谷区南烏山6-2-19）

●交通／京王線千歳烏山駅北口徒歩1分

●問合せ／路上演劇祭 JAPAN 実行委員会 担当 榎本

メール：rojoengekisai2001@gmail.com

※メールへの返信にはお時間がかかる場合があります。予めご了承ください。

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101

メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。（原則として事前予約制です）

●問合せ／最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101

メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

AI システムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト（世田谷版G B E R「ジーバー」）で結び付け、経験や希望に合ったボランティア活動を紹介します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



もっと語ろう不登校 part.299

これまで 30 年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなくたんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お問い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時／4月5日(土) 14時～

●場所／NPO フリースクール僕んち(世田谷区代田 4-32-17)、または ZOOM 会議

●交通／小田急線世田谷代田駅徒歩 6 分 ●参加費／300 円

●問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第 3 分科会「もっと語ろう不登校」担当 高橋
TEL: 090-3905-8124 メール: fsbttoru@yahoo.co.jp

女性支援ボランティア・サポーター養成講座 開催

この講座は女性が抱える多様な困難を理解し、一緒に考え地域のさまざまなニーズに応えられる支援者を養成するものです。修了した方はボランティア・サポーターとして コミュニティ・ネットワーク・ウェブで活動することができます。講座は単発でも受けられます。要申し込みで先着順です。詳細はお問い合わせください。

問い合わせ・申し込み①氏名(よみがな) ②メールアドレス ③電話番号 ④住所 ⑤所属を記入の上、下記お問い合わせ欄のメールまたはお電話にて。

5月10日(土)

①オリエンテーション 10時～12時

講師:プロジェクトチームメンバー相談事業スタッフ、会場:うめとぴあ(1F 会議室 1)

②わたしのグリーフを知る 13時～16時

講師:一般社団法人グリーフサポートせたがやスタッフ、会場:うめとぴあ(1F 会議室 1)

5月31日(土)

③DV、モラハラ、傷つきからの回復に必要なこと 10時～12時

講師:NPO 法人レジリエンス 西山さつきさん、会場:うめとぴあ(1F 会議室 1)

④多様な困難を知る #中高年シングル女性 13時～16時

講師:NPO 法人せたがや福祉サポートセンター(リンク) 光岡明子さん、会場:うめとぴあ(1F 会議室 1)

6月21日(土)

⑤多様な困難を知る #性的マイノリティ女性 10時～12時

講師:NPO 法人レインボーコミュニティ colLabo 鳩貝啓美さん、会場:うめとぴあ(1F 会議室 B)

⑥参加型ワークを通してエンパワメントを体感する 13時～16時

講師:カウンセラー、公認心理師 高山直子さん、会場:うめとぴあ(1F 会議室 B)

7月5日(土)

⑦世田谷区の相談窓口を知る 10時～12時

講師:世田谷区職員、会場:参加者に後日連絡

⑧クロージング「いまここから」 13時～16時

講師:プロジェクトチームメンバー相談事業スタッフ、会場:参加者に後日連絡

●日時／5月10日(土)、5月31日(土)、6月21日(土)、7月5日(土)で

①③⑤⑦:10時～12時、②④⑥⑧:13時～16時

●場所／うめとぴあ(世田谷区立保健医療福祉総合プラザ)

●交通／小田急線梅ヶ丘駅から徒歩 5 分 ●募集人数／20 名

●参加費／無料

●問合せ／NPO 法人コミュニティ・ネットワーク・ウェブ

担当 佐光正子

TEL: 070-6478-7783

メール: wave_setagaya@yahoo.co.jp



上記掲載記事は 3 月 16 日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
障害について ▶ 【ぽーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こういったボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、お気軽にお寄せください。



協会ホームページ、
Facebook、Instagramは
こちらの二次元コードから
ご確認ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。